



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 74 号 2018/5/1 発行）

◆◆ <<https://www.iima.or.jp/>>



＼1. 理事長 渡辺博史 コラム／

Again-Ism の危険

<<https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2018/20180501watanabe.pdf>>

トランプ大統領が「Make America Great Again」と唱えて以来、あちらこちらで「Again!」と叫ばれることが多くなった。と言うよりも、保守、復古、復活、復興という定…

＼2. 客員研究員 絹川直良 コラム／

あらためて東京市場での円建て貿易金融の可能性を探る
－東アジア各国との緊密化と円の国際化を目指して－

<<https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2018/20180501kinukawa.pdf>>

東アジアの貿易金融に東京市場が果たしうる潜在的機能は大きい。日本で展開されている電子記録債権や、SWIFTによる Trade Service Utility といったサービスを活用すること…

■ホームページ 「IIMA の目」

短編コラム「IIMA の目」を、ホームページ最上部にて毎週初更新掲載しています。是非ご覧ください。

<<https://www.iima.or.jp/research/column/index.html>>

1. 「ドイツ経済と米欧通商交渉のゆくえ」 麻野文裕
2. 「ロシアとの関係を強めるトルコ政府」 潮田玲子
3. 「仮想通貨への風当たりが強まるなかでも活況が続く ICO 調達」 志波和幸
4. 「全国人民代表大会を経て、さらなる改革の進捗が見込まれる中国」 梅原直樹

■IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新

<<https://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>>

≪掲載内容≫

- IIMA Global Market Volatility Index
(グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数)
- 購買力平価グラフ
(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円)

■ 今月の新着レポート

1. 「長寿社会の経済学 ～長い老後がもたらす低成長社会～」 森川 央
<https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/320_j.pdf>
長寿化によりリタイア後の人生が長くなることで、消費を抑制し成長率を押し下げることが実証分析で明らかになってきた。先進国だけでなく新興国もやがて高齢化、長寿化に向かい、世界は低成長、低金利、低インフレが続くことになる。これは一過性の現象ではなく、新しい現実として受け入れ対策を講じないといけない。

2. 「断交後も堅実な経済成長を続けるカタール
～GCC 形骸化に伴う中東の地政学リスクには要注意～」 志波和幸
<https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_10_j.pdf>
カタールの経済状況を確認し、次にサウジアラビア主導のカタール断交を概観したうえで、断交に伴う地政学リスクとして指摘される湾岸協力会議 (GCC) の分裂・形骸化について説明する。

3. 「ムハンマド皇太子への権力集中を急ぐサウジアラビア
～最近の原油価格上昇による財政規律の緩みには要注意～」 志波和幸
<https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_9_j.pdf>
近年に原油価格の低迷を経験したサウジアラビアは、原油産出国から、G20 唯一のアラブ国として高付加価値商品を輸出する責任ある大国にシフトしようとしている。そうしたなか、2017 年 6 月に皇太子に昇格したムハンマド・サルマーン副皇太子 (MbS) への期待及びリスクについて説明する。

4. 「脱『ドル依存』とアジア新興国」 武田 紀久子
<https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/319_j.pdf>
アジア新興国における脱「ドル依存」は、1997 年 7 月のタイ・バーツ危機を端緒として瞬く間にアジア全域に伝播した金融危機の教訓として、多分にその再発防止やセーフティネット (安全網) 構築を念頭に進められてきた側面が強い。当時から今に至るその流れを概観する

5. 「幼稚産業保護とベトナムの自動車産業

～完成車の輸入関税撤廃を巡る動きと将来～」森 純一

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_8_j.pdf

幼稚産業保護は貿易理論のなかで一定の役割を認められており、ドイツ、米国、日本で行われていた。ベトナムでも自動車産業の育成について幼稚産業保護と思われる議論がある。ベトナムの自動車産業の可能性と産業振興の方法を考えてみたい。

6. 「Globalization of the Asian Bond Markets :

Foreign Investors Indispensable for Further Development」Ayako Yamaguchi

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_4_e.pdf

「アジア債券市場のグローバル化の進展状況

～市場のさらなる発展に不可欠な外国人投資家～」の英語版

7. 「『双子の赤字』に転じたフィリピン経済 ～見通しとリスク」潮田 玲子

https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/318_j.pdf

ドゥテルテ政権下における「双子の赤字」の要因を分析しつつ、政府が推進するインフラ整備計画の財源確保のため20年ぶりに実施された税制改革の概要を整理したうえで、フィリピン経済の見通しとリスクを考察する。

8. 「米国の保護貿易主義とドル安リスク」武田 紀久子

https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/317_j.pdf

2018年第1四半期に急進行したドル安円高の背景にある、トランプ政権の保護貿易主義政策、そして、FRBによる正常化戦略を概観する。(週刊エコノミスト2018年3月13日号寄稿文を加筆・修正)

9. 「回復見通しに水を差すブラジル大統領選」森川 央

https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/316_j.pdf

2018年のブラジル経済は緩やかな回復を続ける見通しだが、10月に実施される大統領選挙が陰を落としている。ルラ元大統領が訴追により出馬できなくなると、本命不在となり不透明感が高まる。現テメル政権が進めようとしてきた構造改革の継承にも疑問符がつく。

■ 今月の IIMA

公益財団法人である IIMA にとって、大学への講師派遣は研究成果の社会還元というだけでなく、教育に直接携わる重要な事業と考えています。

今年度から新たに国士舘大学の 21 世紀アジア学部で、「アジアと金融」という講座を受け持つことになりました。部長以下研究員が入れ替わり講義します。専務理事も、メガバンクのアジアビジネスという民間講師らしいテーマで登壇の予定です。

経済学部の学生ではないので、より丁寧な分かりやすい説明が求められそうです。しかし、それは我々にとっても貴重な機会です。分かりやすく伝えるには、我々が深く理解していないとできないからです。研究員も新学期に向けて勉強中です。

【バックナンバー】

[〈https://www.iima.or.jp/maimagazine.html〉](https://www.iima.or.jp/maimagazine.html)

【次号】

2018 年 6 月 1 日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

[〈https://m.entryform.jp/m/iima/〉](https://m.entryform.jp/m/iima/)

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<http://get.adobe.com/jp/reader/>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <https://www.iima.or.jp>

Copyright (C) IIMA All Rights Reserved.